

## いつかは復活させたい趣味

放射線技術科支部 吉田有佳（23期生）

診療放射線技師の道を歩み始めて、早13年の時が流れました。

“おばあちゃんっ子”だった私の趣味は陶芸に着物鑑賞に手芸と、学生当時から抜きんでて婆臭く、友人達に興味を持ってもらえる事は中々ありませんでした。

特に陶芸は、子供の頃からTVで見る陶芸作家のろくろを回す姿に憧れ、いつかはやってみたい！と思い、念願叶ったのは車の免許を取った21歳の春だったと思います。

ネットで備前の工房を調べ、電動ろくろ体験に母を誘って出掛けました。

初めて触る土の感触、電動ろくろを使い、自分の手から茶碗や湯飲みが出来上がっていく感動。あの感動が忘れられず、同じくハマってしまった母を連れて時間とお金のある時に赴いていました。作成途中でクシャっとなるのかなと思いましたが、母共々、特に失敗する事無く、大体年に1回、1作品を目安に作っていました。

8年前に結婚し、同時に父が胃癌を患ったり、祖父母を3人3年続けて亡くしたりと、今では足遠くなってしまいました。

それでも最後に、当時86歳の祖母や叔父叔母、義理の妹など、総勢10名程で作品を作りに行った時の事は今でも楽しい思い出です。

すごく精確で几帳面だと思っていた役所勤めの叔父が、自分の失敗作の中から柔軟に御猪口を作り出したり、手先は器用ではないと言っていた義理の妹が幾つも茶碗を嬉しそうに作り出していたり、何よりも祖母が2時間かけて、手ひねりで熱心に、自分の思うように花器を作り上げた時の満足そうな顔は忘れられません。家族の新たな一面を知る、とても良い機会となりました。

今はまだ日々に忙しく、趣味に費やせる時間が持てませんが、いつか必ず母が元気な内に、もう一度始めたいと思います。

過去の作品達です。

実家に何点か置いてきた為、手許にあるのはこれだけです。我ながら満足に行く出来です♪  
最も難しかったのは右下の直径25cm強の大皿です。

